


servas JAPAN 近畿支部会報2022年6月号

支部長 Ak

バングラデシュの子供の日本語支援を始めて5年になります。京都から埼玉県に転居しているので、支援はフェイスブックのメッセージを利用して支援しています。去年は妹も生まれ私たちが会いに行くことを楽しみにしています。日本語で子供同士の日常会話をする事の不便はあまり感じてないようです。しかし、勉強になると文章を読んで理解しないといけないことはやはり大変です。時々勉強するのを忘れてしまうのですが、提出日のあるプリントをもらおうと必ず「これは何？なんて書いてあるの？」と聞いてきます。私は、「プールがはじまるよ、自然学習があるよ。ママに予定を聞いてね。」と答えながら一つ一つ確かめています。毎週末は自由学習が宿題に出されます。何をしたらいいのかよくわからないと聞かれました。そこで以前、ママの作ったデザート『ドイ』について書いてみることを勧めました。ヨーグルト系のスイーツです。一度食べたことはあるのですが不思議な味だったという事だけ覚えています。次回会いに行くときに  は作ってくれるそうです。楽しみにしています。

今回の会報は、次の内容でお届けします。

1. 例会報告	草津市	Nn
2. 私のバラ庭作り	木津川市	Km
3. 日本を避難先にした Anachan		
Anachan のホストをして	京都市	Wh
ようこそ我が家へ	大津市	Ss
4. 東から西から会員日より		
再びサーバスへ	芦屋市	Hs
5. お知らせとお願い	支部長	Ak

1. 例会報告

草津市 Nn

小林ローズガーデン例会(クローバー牧場・浄瑠璃寺)

参加者：16名(敬称略)

Km Mt Mk Wh

Anachan

he Ht Kk Ss

Hs On Ss

Nh Ns Nm Nn

5月29日(日)小林さんの手造りローズガーデンを訪問させていただきました。

JR木津駅で待ち合わせ、「お久しぶりです！」と再



会を、「初めまして」と出会いを喜び合いました。

車の台数が多いので、小林さんの所の他、クローバー牧場の駐車場にも止めさせてもらって歩いて数分、ほんのり薔薇の香りがしてきたと思ったら、ヨーロッパの風景を思い起こさせてくれるようなバラ園が右手に、かわいいログハウス風の建物が薔薇に囲まれて左手に。早咲きの薔薇は終わりかけと聞いていましたが、まだまだ沢山の色々な種類の薔薇が咲き誇っていました。口コミでガーデンの事が伝わって来訪者が多いと聞いていましたが、この日も他の方々がすでに楽しんでおられました。例会の後、持参した昼食を思い思いの場所でいただき、しばしバラ園を探索。美しい〜のひと言。畑には豆やとうもろこし、果樹もあり、抜いたり刈ったりした草や枝の山を見て、小林さんの日々の忙しさを垣間見た気がしました。だからこそ、このバラ園の美しさなのだと思います。小林さんには、お忙しい中本当にお世話になり、ステキな時間を有難うございました。バラ園を歩いていると、ビ〜と人工音。何かを除けるためだろうとは思いましたが、まさかのモグラ除けでした。



記念写真をとったあと、クローバー牧場でアイスを食べ、牛を遠めに見て(牛舎の近くまで見に行った人も)、近くの浄瑠璃寺へ。素朴な、自然に溶け込んでいるような、静かで厳かなお寺でした。

お天気も良く、自然を満喫し、楽しく有意義な一日でした。次は秋に滋賀でと、それぞれの帰路につきました。

2.私のバラ庭作り

木津川市 Km

私の園芸歴はもう50年以上になります。庭にいろいろな花を植えていた母の影響で、私もいつのまにか小学生のころから花の種をまき、育てることが好きになっていました。

バラとの出会いは母が植えていた1本のピンクのバラでした。ケーキの上に飾られたバタークリーム
のバラの花そっくりで、形の整った、サーモンがかった何とも言えないきれいな色合いのピンクのバラの花に私はすっかり魅せられてしまいました。



結婚して2年後、小さな庭付きの家に引っ越してから、庭はバラでいっぱいになりました。フェンスやポールにアンクルウォルターという赤いつるバラを5本植え、外回りは赤いバラの花で埋まり、中にもいろいろなバラを植えました。でも何年もたつ頃にはどのバラも根元にテッポウムシ(カミキリムシの幼虫)が入り、だんだんと枯れていってしまいました。またお隣の距離が近い狭い庭で病気や虫が出ても薬剤はまきにくく、バラ栽培は断念してしまいました。

バラが枯れてからも庭はパンジーやデージー、キンギョソウなどの種をまいて育て、地植えだけでなく、当時はやっていたハンギングバスケットをいくつも作って立体的に飾り、小さな庭は常に花であふれていました。タキイやサカタのカatalogを見て、あれもこれも育てたいと種を取り寄せましたが、一袋の種をまいてたくさんの苗ができて狭い庭では植えられる数が限られてしまいました。間引きはしたくなくて、花友だちに分けたり、公園ボランティアになり、公園に植えたりしました。当時から借りた畑で野菜作りもしていましたが、自分の土地で野菜畑や果樹園を作りたい、バラも植えて庭を作り、種をまいて出た花の苗を全部植えられる広い土地がほしいといつも願っていました。



その夢がかなったのが13年前。ネットで不動産会社の売り土地の情報をみていたところ、偶然見つけたのが500坪の今の土地です。130坪の宅地と370坪の原野、理想の土地ではありませんでしたが、広さは充分、当時59才の私が一から始めるには今しかないと思い、購入を決めました。胸ぐらまでの草や葛のつるに覆われていた原野の方をまずガーデンと野菜畑にしようと計画し、開墾を始めました。現在ガーデンにしている平地は最初だけミニユンボで葛の根を取ってもらいましたが、残り部分は傾斜地で自分で土を起こして開墾し、野菜畑や果樹畑にしていきました。

私が再びバラを植え始めたころ、バラの世界は昔とずいぶん変わってきていました。昔のバラは四季咲き大輪バラのHT（ハイブリッド・ティー）と、房咲き中輪バラ（フロリバンダ）、そして枝変わりのつるバラが主流でしたが、現在はどんどん交配や改良が進み、イングリッシュローズ、モダンシュラブローズといわれるバラや改良前のオールドローズと呼ばれるバラに人気が集まっていました。高芯剣弁の形の整ったバラらしいバラの花に慣れた目には、これらの平べったくすぐに開いてしまうバラや中心花びらぎっしりのロゼット咲やカップ咲きのバラの花には最初はなじみませんでした。とにかくたくさん咲くこと、香りがよいものが多いこと、そしてなにより病気に強いバラが増えてきて、私のガーデンも今は多くのバラがそういったバラです。

私はバラだけが整然と植えられたバラ園にはあまり魅力を感じません。私が目指したいのは木々や宿根草、一年草などと一緒にバラが咲くローズガーデンです。イングリッシュガーデンに近いといえば近いのですが、それにはバラの数が多すぎですし、もっと広い芝生のスペースもほしいところです。ただ、イングリッシュガーデンに欠かせないボーダーガーデン（高さのある植物を後ろに、低い植物を通路側にいろいろな植物を配置した細長い花壇）と、カラースキーム（色彩計画）ガーデンとしてブルー系統の花ばかりの小さなブルーガーデンは取り入れました。ホワイトガーデンもそのうち作りたと思っています。

ところで、私が小さいころに母が植えていたピンクのバラですが、ラベルもなく、名前がわかりませんでした。のちにこれだというバラがありました。1951年に作出された名花でコンフィダンスという名前のバラでした。今は植えていません。店頭で見かけたら買ってしまってもいいかもしれませんが、めったに出会わず、ネットで探せばありますが、特に手に入れたいとは思っていません。いつまでも私の思い出の中のバラです。

3. 日本を避難先にした Anachan

Anachan のホストをして

京都市 Wh

Anachan と私の朝は、決まってどちらかともなく出るくしゃみと「God bless you!」で始まる。彼女はこの現象を「allergy duo」と名付けていました。Anachan とは 2018 年に彼女が来られた事から SERVAS ホストとゲストの関係で始まりましたが、その後もメール交換で何となく繋がっていました。そんなある日彼女のお手製のビーズ刺繍のバッグが送られて来ました。その刺繍の素晴らしさはあの若さと風貌からは想像を超えるもので、街中で持ち歩いていると見知らぬ人から注目され、鼻高々で自慢していました。これに見合うプレゼントをといろいろ買い集め、いざ送ろうと思った矢先コロナの流行で Anachan の手元に届いたのはかなり経ってからでした。やがて LINE で繋がるようになり、日本愛が止まず日本語の勉強をしているとかで、度々日本語交じりで飼っているウサギのこと、日本の首相が変わったことなどのやり取りをしていました。



着付けされた Anachan と

2021 年 12 月 8 日の「ふゆはきれいですがさむいです」以降 LINE が途絶え、やがてロシアのウクライナ侵攻の報道が流れ、私の一方的な LINE に不安が募るばかりでした。そして待ちわびた彼女からの LINE の一報は、翌年の 3 月 3 日、ポーランドに母親と避難、日本のサポートに感謝していると書かれていました。私は胸がいっぱいになり「生きていてくれてありがとう！今すぐ会いたい！」と返しました。彼女はウクライナの中でも比較的安全なポーランドの国境近くのリビウに住んでいましたが、それでも避難せざるを得ない現状の緊迫さを感じました。避難生活はさほど悪くはなさそうでしたが、何かあれば何時でも私を頼って欲しいと告げました。日本ではウクライナの平和への思いとロシアへの非難が飛び交う中、日本への避難を決めたのか、ドイツに渡りビザ、そして航空券の取得とメールからは日本への熱い思いが感じられ、それに伴い私の覚悟も確固たるものになりました。



Y さんからの花

4 月 16 日、お互い不安を抱え 4 年前の初めての出会いと同じく JR 二条駅で再会。4 月とはいえ冬のような寒い日でしたが、興奮で心は熱いものがありました。次の日マンションのエントランスで彼女にオートロックの説明をしていると、よく知る 3F の Y さんに出くわし「ウクライナから来られたんですよ」と紹介。その日はいつも通り私はスポーツジムで汗を流し帰宅後、Anachan との会話に悪戦苦闘していると、3F の Y さんが 8 歳の息子と共にメッセージ付きの花籠とお菓子のプレゼントを届けてくれました。私はこんな幼い子供も悲惨なニュースに心痛めているのだとこみ上げるものがありました。Anachan も同じ思いだったと思います。後に岡山の大学でのスピーチで彼の事を語って

ていました。

ちょうどその頃都おどりの事をリサーチしていたのか、「行きましょー！」と誘われ自らチケットを南座まで買いに行ってくれました。4 年前



も今も変わらぬ舞妓愛は健在で、暫し戦火の祖国を忘れて、はなやかな舞台に「きものきれい」と終始嬉しそうでした。

私もボランティアでの関わりがある京都市国際交流協会が「ウクライナ京都市民ぐるみ受入支援ネットワーク」の窓口になっていました。協会の職員のウクライナのOさんは、彼女とは来日前からメールのやり取りがあり心強い存在だったと思います。同居 10 日目、特にキーウと姉妹都市である京都市に私達は強い期待を抱いていましたが、住まいも仕事もなかなか決まらず Anachan 曰く、「京都人は鴨川の流れといっしょだ」と対応の遅さにイライラを隠せないようでした。私も住まいの世話をかってでたアパマンにメールで催促しましたが良い返事はもらえませんでした。

そんな中で私は以下のようなサポートをしました。

- ① 観光ビザから就労ビザへの変更手続きの為出入国在留管理局へ。言葉の壁とパーティションとマスクの為苦労しましたがなんとかクリア。1 年間の就労ビザ取得の費用として 4000 円を請求され、Anachan は避難民なのにとちょっと不満げでした。
- ② 国からの支援金はと住まい準備金を提示、その為の大量のドキュメントの送付、その後は保証人の私とのメールで進めました。一番高いハードルでしたが、パソコンに強い Anachan のお陰でなんとか超えられましたが、審査決定まではまだまだ時間がかかりそうです。
- ③ 結局アパマンはあてにならず、とりあえず私の住所で区役所に住民票登録、国民健康保険の交付、年金の手続き、マイナンバー登録等を済ませ少し安堵しました。
- ④ 就職も自分の経歴に見合うものが見つからず、模索の日々を送っている矢先、教育委員会からALT補助の仕事の話が飛び込んできました。支援担当者からは Anachan の為に教育委員会が準備したと聞かされました。本人も悪くはないと判断、教育委員会の職員 3 名との面接を経て仕事への気持ちを固めたようです。
- ⑤ Anachan は市内の中心部に住みたいと思いましたが適当な物件がありませんでした。市が用意してくれた市営住宅一軒のみ。外観は古くて薄暗い感じでしたが、中に入ると新しい畳の匂いがしてきれいでした。新しい物件はなくそこに移り住む事になりました。区役所で転入届、水道などの開栓の連絡。新しい住まいが決まったので、市からの支援金が手渡されました。家賃は市が負担してくれます。
- ⑥ ゆうちょ銀行開設



毎日が慌ただしくあっという間の 4 5 日間でした。周りの友達からは「大変やね」とよく言われましたが、正直思っていたほど大変ではなかったです。それは SERVAS 仲間や Anachan のお友達、ウクライナ支援団体のお陰であり、何よりも Anachan だから頑張れたのかもしれない。



母の日（ウクライナも同じ日）には、私が母親位の歳なので大丸でお刺身を買って来てくれたり、誕生日にはメッセージ付きのバースデーケーキとアレンジフラワーのプレゼントと今年は忘れ

られない特別な日になりました。

又驚かされることも度々で、ある雨の日大きなダンボウルを抱え、家に入るなり「H さーん ミラクル」と、なんと雛人形一式を 1000 円で買ってきたと興奮状態でした。メガネに雨の水滴をつけながら、その奥の目は欲しかったものを手に入れた子供のような目の耀きでした。

依然として戦争の終わる気配はなく、Anachan の家族の不安な日々も続いています。我々に戦争を止める手立てはなく、この先も変わらぬ気持ちでサポートしたいと思っています。

ようこそ我が家へ

大津市 Ss

5月9日、ホストをされている W さんが外泊されるため、Anachan が我が家に来てくれました。W さんが送って来られて、W さん、Anachan、私たち夫婦で早速ティタイム。Anachan を囲んでひとしきり話した後、W さんはさようなら。

私は夕食の準備、Anachan と主人がデッキで何やら楽しそうに話しています。その後 Anachan はデッキの隣にある木で出来た個室別棟、我が家自慢の五右衛門風呂に入って体がぼかぼか、とても良い気持ちになりました。Anachan はデッキから見る景色が気に入って、暇があればデッキに行っています。

夕飯は私の知人からの有機野菜中心の物、Anachan はとても美味しいと食べてくれました。Anachan の夢は古民家に住んで野菜畑をする事だそうです。夕食後も 3 人でおしゃべりがつきません。家族の事等話してくれた後、話題は日本の事に移りました。ウクライナには日本からの留学生が多くいて日本への興味が膨らみ、日本を訪れてその魅力にひとめ惚れしたそうで、日本文化に詳しい事この上なしです。例えば、舞妓さんや、その髪型は初期と年数が経ったら変わるといふしきたり等、私が知らない事を教えてもらいました。そう言えば Anachan が 6 月の終わりにお茶会に行くのに、自分で袋帯が結べないので、結んであげてくれないかと H さんから連絡があったのですが、着物は正式には 5 月までは袴、7 月からは絹、6 月は単衣です。Anachan はお茶会のためにちゃんと単衣を求めていられました。

夜も更けてお休みタイム、布団を見ると又々布団がお気に入り、Anachan の日本大好きは中途半端ではありません。

翌日は Anachan がご朱印を集めているので石山寺へ。石山寺は素晴らしい、ご朱印も貰えて良かったと満足され、その後山科の友達の家へ行かれました。今回は 1 泊だけでしたが、とても楽しい時を一緒に過ごしました。Anachan、又来て下さいね。



五右衛門風呂



お気に入りのデッキ



石山寺

4. 東から西から会員だより

再びサーバスへ

芦屋市 Hs

集合住宅で独り住まい、1 部屋空いているので、利用してもらおうと考えました。7年前にはアメリカ人が一度だけ利用しました。サーバス再入会者です。1943年生ですからいつまで生きてるやら、商社員として、ミラノ、リヨン、そしてムンバイに都合10年おりました。北米アメリカは出張で。仕事ですから、ナイヤガラ滝に2度行く羽目にも。そんなことで、外国かぶれになっています。幸いに歴史文化伝統を持つ国々で、その影響を受けました。商売の入り口は、彼らの考え方を理解することでしたから。



京都の南区で生まれ育ちました。ただ京都では、四条通より上（かみ）でないと、京都生まれというたらあかんそうですね。

時差の克服が非常に困難になりました。昨年9月、事情もありでフランスに参りましたが、5日目にダウン、帰国後は1か月ほど体調が戻りませんでした。何方か良い方法があればご教授の程を。医者に睡眠薬と言っても取り合ってくれません。ですから時差のある国は行けなくなりました。

ここで、「どうぞよろしく願いいたします」と終わる所ですが、イタリア語、フランス語そして英語ではこの表現はありません。どのように「もてなす」かは、相手の決める事であるので、この表現は僭越になります。我々は謙譲のつもりですが、彼らの言語はあくまで論理であり、気持ちではないようです。

5. お知らせとお願い

支部長 Ak

- * 次の例会予定は秋に滋賀県方面を計画中です。その前に Onine 例会をするかもわかりません。
- * 会報に原稿を下された H さんに続いて、小林ガーデンを作ってられる K さんも Servas に再入会して下さいました。
- * 住所、電話、メールアドレス等変更がありましたら支部長までお知らせください。

...